

令和3年度秋季特別展

帯解の
古墳時代と
ワニ氏



奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター

目次

はじめに・帯解の古墳時代とワニ氏・・・1

ワニ氏の成立基盤とその遺跡・・・2

第1章 ワニ氏の芽生え・・・3

南紀寺遺跡・・・3 美濃庄遺跡・・・4 方形区画溝と首長居館・・・5 古市方形墳・・・6 上殿古墳・・・7

第2章 帯解の首長墳-ベンシヨ塚古墳-・・・8

ベンシヨ塚古墳・・・8

第3章 帯解地域の古墳・・・18

円照寺墓山2号墳・・・18 柴屋丸山古墳・・・20 中之庄上ノ山古墳・・・21 五ツ塚古墳群・・・22
帯解塚古墳・・・23 帯解黄金塚古墳・・・24 上ノ口遺跡・・・25

第4章 ワニ氏勢力の展開・・・26

杉山古墳・・・26 吉備塚古墳・・・27

おわりに・ワニ氏の成立基盤からみた帯解・・・28

図版目録・・・29

例言

■本書は令和3年9月6日～11月5日まで開催する、奈良市教育委員会文化財埋蔵文化財調査センターの令和3年度秋季特別展「帯解の古墳時代とワニ氏」の展示パンフレットです。

■パンフレットは、奈良市教育委員会文化財埋蔵文化財調査センター職員協力のもと、村瀬陸が編集しました。

■展示や本書の作成は、下記の協力機関・協力者にお世話になりました。記して心より感謝申し上げます（敬称略・50音順）。

株式会社アクセス 京都大学考古学研究室 宮内庁書陵部 奈良教育大学 奈良県立橿原考古学研究所
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 大和郡山市
青柳泰介 有馬伸 奥山誠義 勝川若奈 金原正明 木村理 木村結香 小倉須子 佐藤石文
島田茂 十文字健 田村明美 西村奏 樋口太地 山川均 山口等悟 吉井秀夫 渡邊都季哉

表紙：ベンシヨ塚古墳出土短甲（前胴）・ガラス玉、柴屋丸山古墳出土勾玉
裏表紙：ベンシヨ塚古墳出土短甲（後胴）

はじめに - 帯解の古墳時代とワニ氏 -

帯解（おびとけ）は読み方が難しい地名としてよく取り上げられますが、奈良市街地の南東部に位置します。平安時代に文徳天皇皇后が帯解子安地藏菩薩に祈願して、清和天皇が無事出産されたことから、これを喜んだ文徳天皇が天安2（858）年に伽藍を建立し、寺号を帯解寺（服帯が解けたことに由来）としたことが地名の由来となっています。

今回の展示は、帯解地域の古墳時代をテーマとしています。帯解の名の由来を考えると、古墳時代には「帯解」という地域の概念が存在していません。

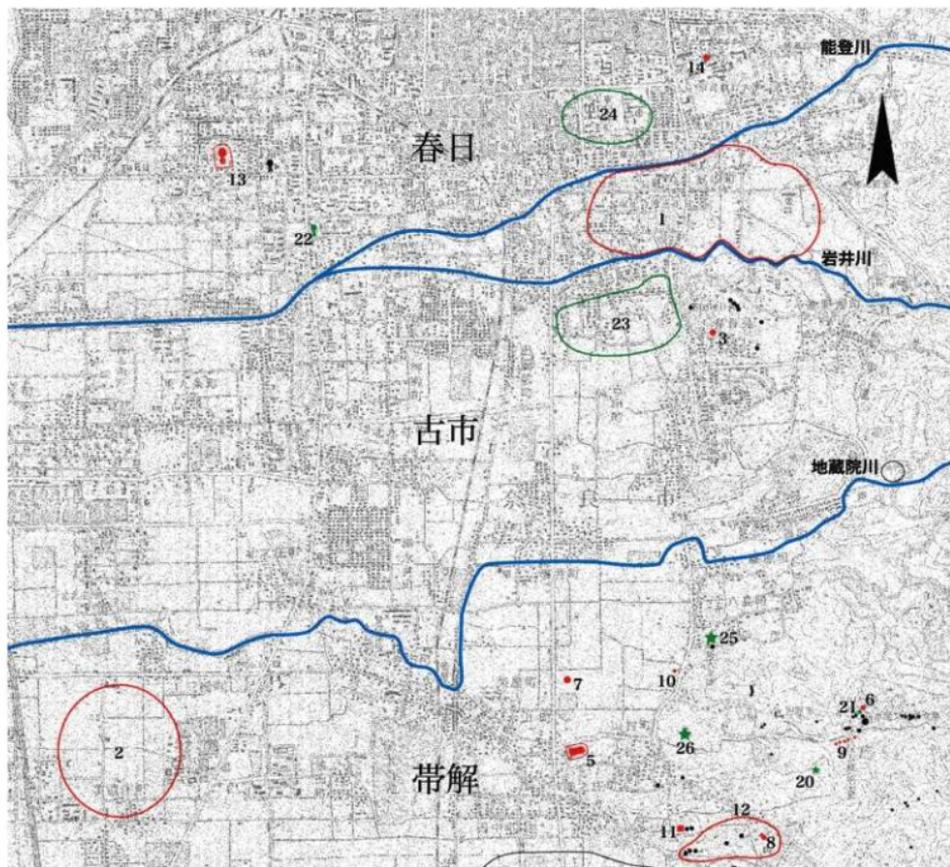
そこで、古墳時代の視点に立つとみていくのがワニ氏です。帯解地域の南側には、天理市の和爾地域が広がります。その名の通り、ワニ氏の本拠地があった場所と考えられている地域で、多数の古墳が存在しています。しかし、史料をみるとワニ氏の勢力は広域的であったようで、和爾地域だけにおさまるものではなかったようです。7世紀頃になると、ワニ氏は春日・小野・大宅・栗田・楠木氏などに分かれていくように、少なくとも現在の春日大社付近まではワニ氏の領域であったと考えられています。

つまり、帯解地域もワニ氏の勢力基盤のひとつであったと考えることができます。古墳時代の集落や集団の単位は、地理的な条件に左右される場合が多く、帯解地域周辺には東西に流れる河川が主に4つ（能登川・地藏院川・菩提仙川・高瀬川）あります。これに分割された平野部を便宜上、現在の地名をとって北から春日・古市・帯解・和爾とし、このなかの帯解に着目するというのが本展示テーマの意図です。ワニ氏成立基盤のひとつである帯解地域の様相を、新たな視点で知っていただける機会になるのではと考えています。

なお、ワニ氏については、『古事記』や『日本書紀』等で、和耳・和邇・丸邇など様々な表記がなされています。これをふまえて氏族を表す際は「ワニ氏」とする見解を岸俊男氏がはやくはやくに提唱され広く周知されていることから、本展示でもこれに準じます。

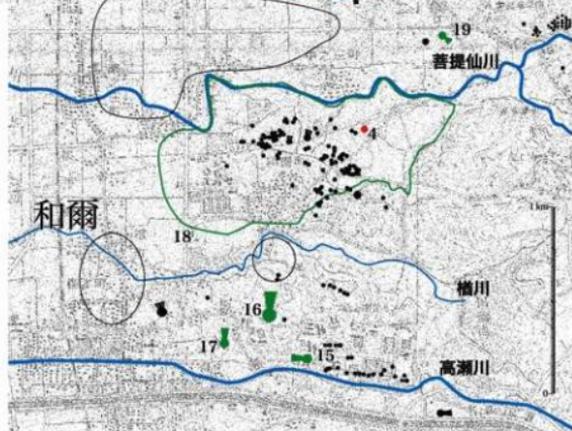


1. バンショ塚古墳と帯解地域（西から）



ワニ氏の成立基盤とその遺跡

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 南紀寺遺跡 | 15. 赤土山古墳 |
| 2. 美濃庄遺跡 | 16. 東大寺山古墳 |
| 3. 古市方形墳 | 17. 和爾下神社古墳 |
| 4. 上殿古墳 | 18. 和爾森本遺跡 |
| 5. ペンション塚古墳 | 19. 栗塚古墳 |
| 6. 円照寺墓山2号墳 | 20. 山村銅鐸出土地 |
| 7. 柴屋丸山古墳 | 21. 円照寺墓山1号墳 |
| 8. 中之庄上ノ山古墳 | 22. 野神古墳 |
| 9. 五ツ塚古墳群 | 23. 古市遺跡 |
| 10. 帯解狐塚古墳 | 24. 東紀寺遺跡 |
| 11. 帯解黄金塚古墳 | 25. 崇道天皇陵 |
| 12. 上ノ口遺跡 | 26. 塔ノ宮廃寺 |
| 13. 杉山古墳 | |
| 14. 吉備塚古墳 | |
- ※ 1～14：展示する遺跡
15～：その他主要遺跡



南紀寺遺跡

時代：古墳時代前期～後期
(4世紀中頃～6世紀)

遺構：水に関わる祭祀遺跡
石積み護岸の溝、井泉等

遺物：土師器、須恵器
土製管玉、砥石等

南紀寺遺跡は、能登川と岩井川にはさまれた扇状地に位置します。遺跡の特徴は、比較的広範囲で石積みで護岸された溝や井泉などが見つかっていることです。類例には三重県城之越遺跡があります。これらは、水に関わる祭祀遺構とされ、通常の集落遺跡とは異なるものと考えた方が良いでしょう。

調査が集中する紀寺南池周辺は、出土遺物から5世紀前半～6世紀頃に盛期と考えられてきましたが、より西側の市第8次調査では、4世紀中頃の土器が石積み護岸の河川から出土しました。このことから、南紀寺遺跡は4世紀中頃に開発が始まり、古墳時代を通して利用されたことがわかります。ワニ氏成期の性格を考える上でも重要な遺跡です。



2. 市第8次調査で見つかった石積み護岸と出土土器（前期）



3. 石積み護岸の溝（中期）

4. 井泉（中期）



5. 中～後期の土器



6. 土製管玉

美濃庄遺跡

時代：古墳時代前期～中期
(4世紀後半～5世紀前半)

遺構：首長居館
方形区画溝、掘立柱建物等

遺物：土師器、初期須恵器
滑石製品、砥石等

美濃庄遺跡は、地藏院川と菩提仙川にはさまれた帯解中心部の西側約2kmの平野部に位置します。近年の調査で、古墳時代前期後半～中期前半頃の方形区画溝が見つかっています。ここからは、土器類とともに滑石製品(刀子形・有孔門板・管玉)や、砥石などが出土しています。古墳時代前期後半以降には、全国的に同様の方形区画溝が見つかることがあり、各地域の首長居館と考えられています。

美濃庄遺跡周辺には、同時期の古墳が存在せず、調査地点の字名がサルメ田(狼女：ワニ氏に関わる巫女)であることから、東側の帯解・和爾地域の古墳群に埋葬された有力者の居館である可能性があります。



7. 美濃庄遺跡の方形区画溝(首長居館)



8. 刀子形石製品・有孔門板・管玉(滑石製)



9. 砥石



10. 土師器と初期須恵器

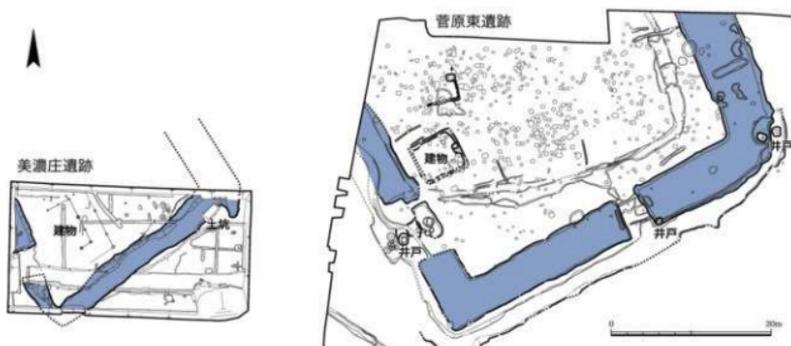
方形区画溝と首長居館

弥生時代には、唐古・鍵遺跡(田原本町)のような環濠をめぐるすまらが全国で確認されています。古墳時代になると、難向遺跡(桜井市)のように整然と並ぶ掘立柱建物群が首長の居館としてみられるようになります。そして、古墳時代前期中頃以降には、方形に区画した溝で囲った居館が全国で登場するようになります。

なかでも、菅原東遺跡は宝来山古墳(垂仁天皇陵)の北約500mに位置することから、大王の居館として位置づけられており、規模は東西約50m、溝の幅も約6mあります。2ヶ所の陸橋部分があり、その付近には井戸が設けられています。区画の内部には竪穴建物が確認されているほか、奈良時代の柱穴と重複して不明確ですが、掘立柱建物もあったと考えられます。溝からは腕輪形石製品や玉類、石製品を作るための石材もみつかっており、石製品の加工も行っていたとみられます。

美濃庄遺跡で近年みつかった方形区画溝は、全体の規模は不明ですが溝の幅は2～3mで、菅原東遺跡に比べるとやや小規模なものを想定できます。出土土器から、概ね4世紀後半～5世紀前半のものであると考えられますが、付近に同時期の首長墳はみつかっていません。しかし、東へ約2kmの位置には5世紀前半～中頃のベンショ塚古墳があり、被葬者の居館の候補として考えることもできます。美濃庄遺跡でも、滑石製品やその原石と思われる石材、またこれらを加工するために必要な砥石が出土しています。

美濃庄遺跡の首長居館は、規模の比較からみても地域首長クラスの居館であり、地蔵院川と菩提仙川にはさまれた帯解地域のなかでみると、現状で最も年代に近いベンショ塚古墳との関連を想定できるものです。帯解地域の古墳と集落を考える上で、美濃庄遺跡でみつかった方形区画溝は非常に重要なものと言えます。



11. 美濃庄遺跡(左)と菅原東遺跡(右)の方形区画溝 1/600



12. 菅原東遺跡の方形区画溝



13. 菅原東遺跡出土の石製品・石材・玉類

古市方形墳

時代：古墳時代前期後半
(4世紀中頃～後半)

遺構：円墳(直径約25m)
埋葬施設：粘土椀

遺物：鏡、琴柱形石製品、
玉、鉄剣、埴輪等

古市方形墳は、1964年に末永雅雄・伊達宗泰氏により調査されました。墳丘は削られて現況では方形を呈していますが、墳頂部の埴輪列が円形にめぐることから円墳と考えられます。埋葬施設は墳頂部からみつかった粘土椀2基で、盗掘を受けていたものの豊富な副葬品が出土しました。これらの副葬品は現在、東京国立博物館に所蔵されています。

埴輪は、奈良教育大学等に所蔵されていますが、古墳時代前期後半の特徴をもつ鱗付円筒埴輪(埴輪編年Ⅱ期)です。副葬品と埴輪の様相がわかる貴重な前期古墳であり、和爾地域の東大寺山古墳等とともに、ワニ氏成立期の古市地域を考える上で再評価していくべき古墳です。



14. 埴輪列検出状態



15. 粘土椀検出状態



16. 鏡出土状態



17. 鉄器出土状態



18. 玉類出土状態



19. 円筒埴輪

上殿古墳

時代：古墳時代前期後半
(4世紀中頃～後半)

遺構：円墳(直径約30m)
埋葬施設：粘土椁

遺物：腕輪形石製品、玉、鉄鏃、銅鏃、埴輪等

1959年に奈良県が埋葬施設を調査し、豊富な副葬品が出土しました。長らく墳形が不明でしたが、2003年に圃場整備事業に伴う全面調査が行われ、直径約30mの円墳であることがわかりました。副葬品の豪華さに対して墳丘が小規模となる事例であり、御所市鴨都波1号墳や古市方形墳も同様です。和爾地域としてみれば、南側にほぼ同時期の東大寺山古墳などの大型前方後円墳が位置しており、これらとの階層関係を考える上でも重要な古墳です。副葬品は、前期後半によくみられるものが中心ですが、環頭形石製品は類例が少なく珍しい出土品で、このような後に続かない製品が作られるのもこの時期の特徴です。



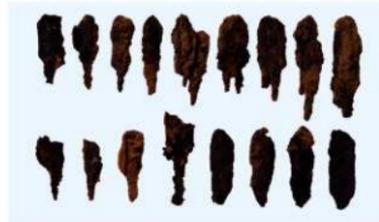
20. 上殿古墳 全景



22. 銅鏃



21. 方形板革綴短甲



23. 鉄鏃



25. 鉄形石



26. 車輪石



24. 環頭形石製品



27. 石鐏



28. 管玉

ベンシヨ塚古墳

時代：古墳時代中期中頃
(5世紀前半～中頃)

遺構：前方後円墳(約70m)
埋葬施設：粘土槨

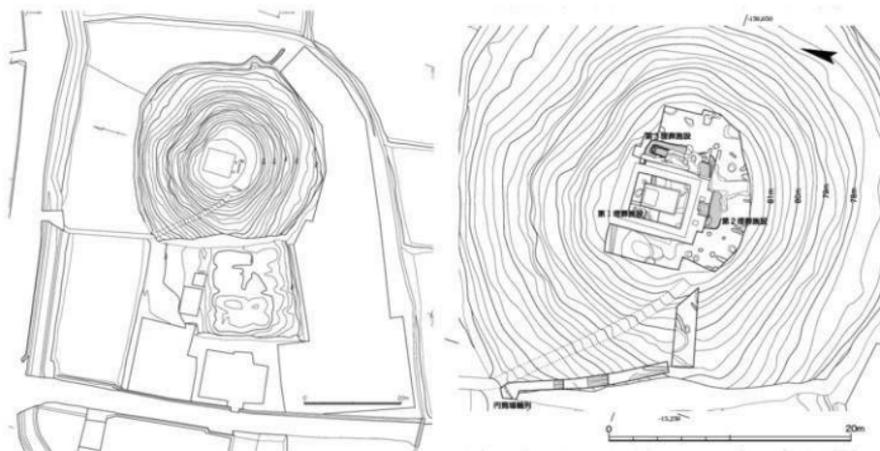
遺物：甲冑、馬具、鉄器、剣
農具、玉、砥石、埴輪等

ベンシヨ塚古墳は帯解地域に所在し、同時期のワニ氏勢力地域では唯一の前方後円墳です。1990年に実施した発掘調査では埋葬施設が3つ見つっています。攪乱を受けているために、いずれも全貌は不明確ですが、甲冑をはじめとする豊富な副葬品が出土しました。これらには、型式的な変化の過渡期にある武器・武具が含まれることから、古墳時代を研究する上でも非常に重要な古墳とされています。

このような重要性から、とくに第2埋葬施設出土品は市指定文化財となっており、これまで一部をのぞいて特別収蔵庫で保管されてきましたが、発掘調査から30年の時を経て、出土品を初めて一括で公開します。



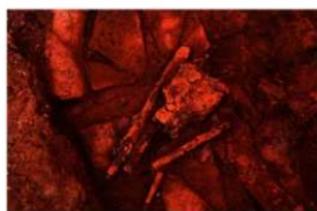
29. ベンシヨ塚古墳出土品



30. ペンショ塚古墳の墳丘測量図 (左: 1/1,000) と発掘区位置図 (右: 1/400)



31. 第2・3埋葬施設検出状態



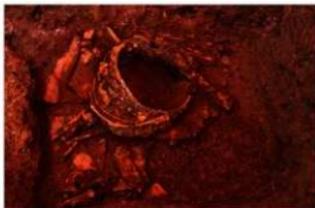
34. 農工具出土状態



32. 短甲出土状態



35. 馬具出土状態



33. 曹出土状態



36. 馬具・剣出土状態

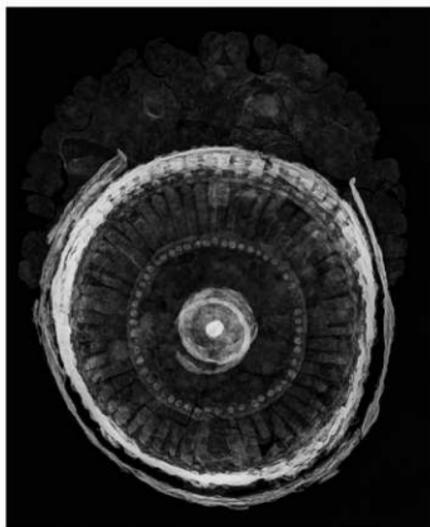


37. 第1埋葬施設周辺出土品



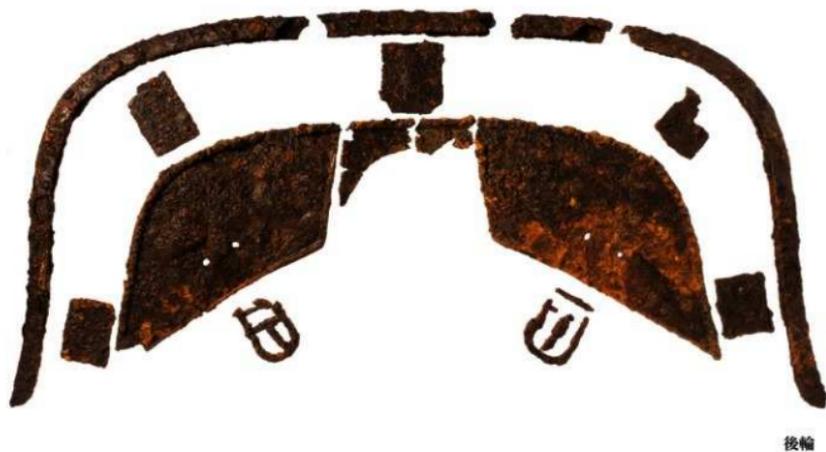
38. 第2埋葬施設出土甲冑

- 冑は鉄、短甲は革で地板を留めており、両者が共存する過渡期的な段階の甲冑です -



39. 第2埋葬施設出土土冑 (上面、右はX線画像)

- X線画像では、底の部分に半円形のスリット (切りめ) があることがわかります -



40. 第2埋葬施設出土馬具

・日本における出現期の馬具で、簡素ながら類例の少ない形態です。



41. 第2埋葬施設出土鉄鏃（鳥舌鏃）

- 鳥の舌のような形をしており、古墳時代中期に盛行する鉄鏃です -



42. 第2埋葬施設出土鉄鏃（長頸鏃）

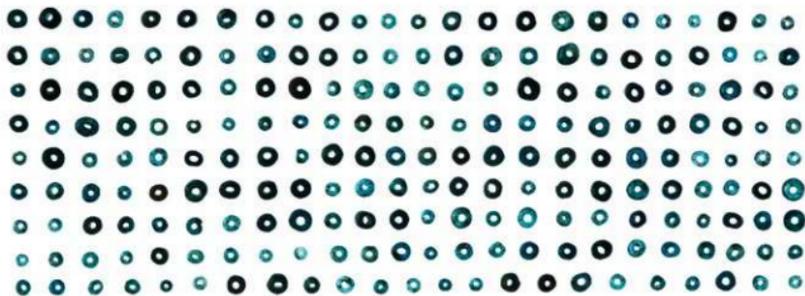
・5世紀前半に出現する型式で、ベンショ塚古墳出土品は出現期の事例として重要です。



44. 第2埋葬施設出土剣（または槍）

43. 第2埋葬施設出土農工具（斧・鋤）

45. 第2埋葬施設出土針状鉄器



46. 第2埋葬施設出土ガラス玉
- 東南アジアで作られた古墳時代のビーズです -



47. 第2埋葬施設出土砥石
- 大型の砥石で表面には金属を研いだような擦痕がみられます -



48. 第3埋葬施設出土滑石製勾玉

-やや酸化した石材とそうでないものがあり、小型の勾玉も1点みつかっています-



49. 第3埋葬施設出土滑石製白玉

-材質は勾玉と同様で、やや酸化したものがふくまれます-



50. 第3埋葬施設出土紡錘車・有孔円板



51. ベンシヨ塚古墳出土土器



52. ベンシヨ塚古墳出土埴輪

円照寺墓山2号墳

時代：古墳時代中期中頃
(5世紀中頃)

遺構：円墳(直径8m?)
埋葬施設：竪椁?

遺物：甲冑、鉄鏃、農工具
馬具、小札等

1959年に調査されましたが、これまで一般に出土品などが公開された機会は少なく、詳細はあまり知られていません。墳丘の大部分が削られていましたが、直径8m、幅1~1.5mの石敷帯が施され、その内側に墳丘盛土があったようです。埋葬施設は基底部に構築され、その後に墳丘盛土をする特殊な構造です。

副葬品は、武器・武具を中心とし、甲冑が銀留技法であることなどから、ベンショ塚古墳出土品よりやや新しいと考えられます。すぐ近くには、同様に豊富な武器・武具等が出土した円照寺墓山1号墳もあり、ベンショ塚古墳に後続する武装的な古墳が一帯に分布するのが特徴的です。



53. 遺物出土状態



54. 石敷帯検出状態



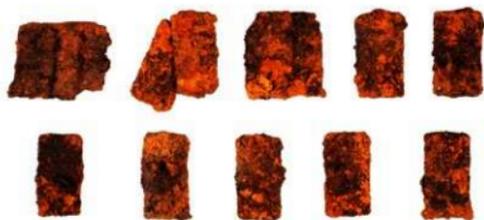
55. 銀留短甲片



56. 鉄斧



57. 鉄針



58. 小札



59. 鉄剣



60. 肩庇付冑



61. 馬具(香葉)

柴屋丸山古墳

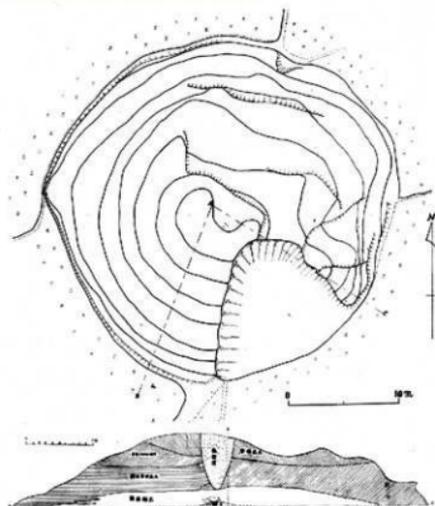
時代：古墳時代中期中頃
(5世紀中頃)

遺構：円墳(直径約32m)
埋葬施設：粘土椁?

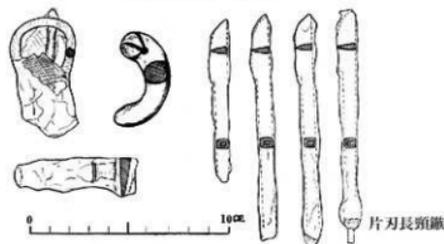
遺物：鏡、鉄鏃、銀銅、勾玉等

ベンショ塚古墳の北側に位置し、1956年に県道工事の採土地となり墳丘が削られる際に緊急調査されました。円照寺墓山2号墳と同様に基底部に埋葬施設がある特殊な構造です。墳輪列等の検出はされていませんが、調査中に墳輪や葺石石材と思われるものが多数あったようです。

時期を特定できる出土遺物は少ないですが、片刃長頸鏃の存在から、ベンショ塚古墳に後出すると考えられます。また、銀銅など類例の少ないものや、濃青色のガラス製勾玉には赤色顔料が付着することから、埋葬施設に顔料が用いられたこともわかります。現在は、墳丘が削られて円形地割が残ることで、かろうじて古墳があったことをうかがい知ることができます。



62. 墳丘平面・断面図



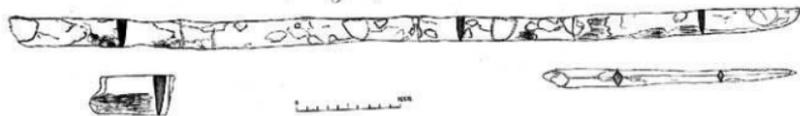
片刃長頸鏃



63. ガラス製勾玉



64. 銀銅



65. 副葬品の実測図

中之庄上ノ山古墳

時代：古墳時代後期
(6世紀前半～中頃)

遺構：前方後円墳 (34m以上)
埋葬施設：不明

遺物：円筒埴輪、形象埴輪
絵画埴輪、須恵器

2014年に奈良市教育委員会が調査し、後期の前方後円墳であることが明らかになりました。周溝からは円筒埴輪や多種多様な形象埴輪、また豊富な須恵器が出土しました。周辺では同時期唯一の前方後円墳であり、6世紀はワニ氏が勢力を拡大する時期にあたるため、その首長墳として位置づけることができます。

出土品のなかでも騎射人物の絵画がある埴輪片は、類例がなく特殊な資料です。ただし、すぐ西側にあつたとされる(仮称)上ノ口古墳でも絵画埴輪が表採されているようで、この地域の埴輪生産の特徴としてあげることができます。現在は、後円部の一部だけが残されています。



66、中之庄上ノ山古墳出土品

五ツ塚古墳群

時代：古墳時代後期
(6世紀後半～7世紀)

遺構：円墳・方墳
埋葬施設：横穴式石室

遺物：土器小片

山町の谷筋の北斜面に5つの古墳が並ぶことから、古くより五つ塚として知られてきました。明治以降にはすでにいくつかの横穴式石室が開口していたようですが、1994年に市道工事に伴い奈良市教育委員会が調査しました。調査の結果、W字状に古墳が配置されており、谷側の2・4号墳が方墳、その他山側が円墳であり、いずれも横穴式石室をもつことがわかりました。これらは、より小さな石材である1・3・5号墳が古く、2・4号墳が新しいと考えられます。盗掘等により出土遺物がほとんどなかったため正確な時期は不明ですが、石室形態から概ね6世紀後半～7世紀に位置づけられるものです。



67. 五ツ塚古墳 全景



68. 五ツ塚1号墳



69. 五ツ塚2号墳



70. 五ツ塚3号墳



71. 五ツ塚4号墳



72. 五ツ塚5号墳

帯解狐塚古墳

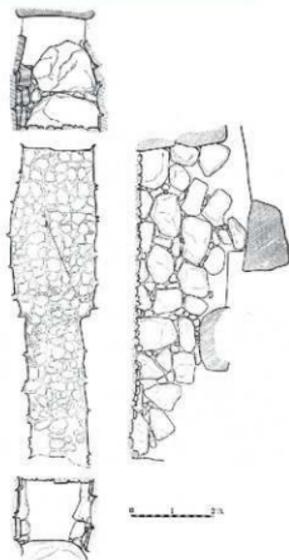
時代：古墳時代後期
(6世紀後半)

遺構：円墳
埋葬施設：横穴式石室

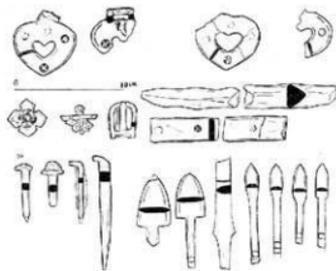
遺物：須恵器、馬具、鉄鏃等

1959年に土砂採掘に伴い調査され、現況の改変された墳丘は直径約5mの高まりを残すのみです。割石を積んだ両袖式の横穴式石室で、天井石などいくつかの石材が抜き取られています。出土遺物には、杏葉・鉄鏃のほか、長脚付壺・高杯・麗等の須恵器があります。須恵器はTK43型式で、6世紀後半の築造と考えられます。

周辺に同時期の古墳はなく単独で築造されており、これより東側の山林に広がる群集墳等とは差別化できる古墳です。ただし、古墳の副葬品や石室規模は一般的なもので、この差が何なのかは興味深い課題です。



73. 石室実測図



74. 副葬品実測図



75. 副葬品出土状態



76. 副葬品の須恵器

帯解黄金塚古墳

時代：古墳時代終末期
(7世紀)

遺構：方墳(約30m)
埋葬施設：磚室

遺物：須恵器、椋原石

1890年の開鑿中に石室石材が出土したことから、奈良県を通じて宮内大臣に報告され御陵墓伝説地となり、現在は陵墓参考地として宮内庁が管理しています。溶結凝灰岩(椋原石)の板石を積んだ磚室で、桜井市の舞谷古墳群などに類例がありますが、この地域では特殊なものです。2006年に宮内庁が石室の実測調査を行い、図面や内部の写真が公開されました。

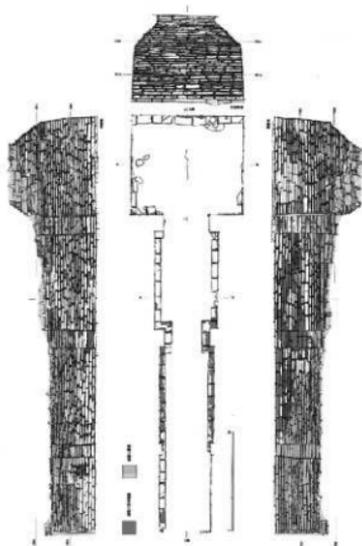
また、陵墓区域外で奈良市教育委員会が行った調査では、墳丘裾の石列やその手前に設けられた石敷を検出しています。この時出土した須恵器は、概ね7世紀前半～中頃に位置づけられます。また、開鑿時等に壊された石室石材の一部も出土しています。



77. 石室奥壁



78. 前室から女室をのぞむ



79. 石室実測図



80. 墳丘裾と石敷



81. 出土土器



82. 石室石材の溶結凝灰岩

上ノ口遺跡

時代：古墳時代終末期
(7世紀)

遺構：掘立柱建物、井戸

遺物：土師器、須恵器、榛原石

2014年に中之庄上ノ山古墳の北側平坦部で確認された集落遺跡です。数種の掘立柱建物のほか、能柱建物やそのそばには井戸があり、出土遺物から概ね7世紀前半～中頃のものであることがわかりました。

興味深いのは、井戸を人為的に埋めた最上面を、溶結凝灰岩を中心とする石材で封じていることです。井戸を封じること自体は珍しくありませんが、溶結凝灰岩はこの付近では採取できず、榛原市域付近から持ち込まれたものと考えられます。西側に位置する帯解黄金塚古墳では、この石材が石室に使用されていることから、上ノ口遺跡は帯解黄金塚古墳と密接な繋がりがある集落と考えられます。



84. 溶結凝灰岩で封じた井戸と中之庄上ノ山古墳



83. 上ノ口遺跡の全景 (東から)



85. 井戸の断面状態



86. 井戸上面で出土した溶結凝灰岩

杉山古墳

時代：古墳時代中期中頃
(5世紀中頃)

遺構：前方後円墳(全長154m)
埋葬施設：不明

遺物：円筒埴輪、形象埴輪

能登川により形成された扇状地の扇端部に位置し、東側にはほぼ同時期の墓山古墳が位置します。また、南東約500mには阿蘇ピンク石の石棺をもつ野神古墳があり、大安寺古墳群を形成しています。

杉山古墳出土埴輪は、佐紀古墳群など大王墓出土埴輪の作り方にならったものですが、蓋形埴輪の立飾部が無文であるなど異質な点もあります。また、ウナナベ古墳外堤にみられる幅広突帯の大型円筒埴輪も出土しています。能登川流域では、吉備塚古墳や東紀寺遺跡の中期古墳群などがあり、これらと階層構成を形成する首長墓群として大安寺古墳群を位置づけできる可能性があります。杉山古墳はワニ氏勢力の展開を考える上で重要な古墳です。



87. 杉山・墓山古墳と大安寺(昭和29年撮影、北東から)



88. 杉山古墳出土埴輪



89. 幅広突帯の大型円筒埴輪



90. 無文の蓋形埴輪(立飾部)

吉備塚古墳

時代：古墳時代中期末
(5世紀後半)

遺構：円墳 or 前方後円墳
埋葬施設：粘土椁

遺物：鏡、環頭大刀、挂甲
玉、埴輪等

奈良時代の吉備真備の墓とも伝わってきましたが、2002・2003年に実施された発掘調査の結果、5世紀後半の古墳であることがわかりました。出土品には、雄略・継体期の首長墳で出土する同型鏡群の画文帯神祇鏡をはじめ、新たな型式の甲冑である挂甲や環頭大刀などがあります。埴輪列はみつかりませんが出土した円筒埴輪には、外面タテハケで底部調整を行うV群埴輪の特徴がみられます。

ワニ氏は、6世紀頃にまず大春日氏と称することが知られており、後に春日氏などさらに枝分かれていきます。吉備塚古墳は、台頭していく春日氏のなかでも首長的存在の被葬者像が考えられます。



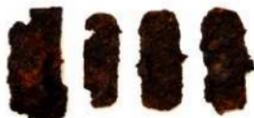
91. 三累環頭大刀の環頭部



92. 画文帯神祇鏡



93. 鉄蕨



94. 挂甲



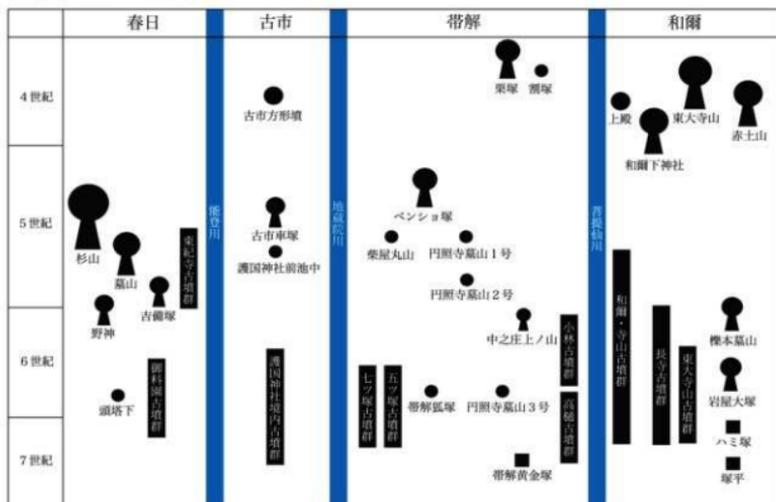
95. 埴輪

おわりに - ワニ氏の成立基盤からみた帯解 -

『古事記』孝明天皇段には、春日・大宅・栗田・小野・柿本・志比草・大坂・阿那・多紀・羽栗・知多・牟耶・都怒山臣、伊勢飯高・志師君が和珥氏の祖である天押帯日子命を祖先とすることが記されています。また、『古事記』の武烈即位前紀の歌謡には「石の上 布留を過ぎて 蕪枕 高橋過ぎ 物多に 大宅過ぎ 春日の 春日を過ぎ 妻廻る 小佐保を過ぎ…」とあり、ワニ氏の成立基盤は天理市和爾町から奈良市春日野町付近にまでおよぶと考えられます。日本史学の研究では、史料や現在に残る地名、寺社等を参考に氏族の成立基盤を探っています（加藤 2013）。このように、史料からある程度その実態を絞り込むことができるワニ氏について、考古学的な視点でみた場合にどのように浮き上がってくるのかを考えてみます。

はじめにでも述べたように、笠置山麓では東西の河川を中心に区分することができ、エリアごとの古墳とその編年の位置づけをしたものを下図にまとめました。これを見ると、和爾地域で東大寺山古墳などの大型前方後円墳がいち早く出現しており、この一帯で最初に勢力を築いたことがわかります。ただし、前期に遡る可能性が高い栗塚古墳や、古市方形墳など、和爾地域より小規模ながら各地域で古墳の築造が確認できます。5世紀になると、帯解地域で首長墳のベンシヨ塚古墳が築造され、その東側には円照寺古墳群等もみられます。また、春日地域でも能登川流域で杉山古墳等の前方後円墳が築造されますが、前期に勢力を築いた和爾地域では目立った首長墳がみられません。6世紀には、再び和爾地域で群集墳や首長墳となる前方後円墳が安定的に築造されます。その他の地域でも同様に群集墳が認められ、ワニ氏としての勢力が最も高まった時代であると言えるでしょう。このことは、奇しくも雄略期以降に安定的にワニ氏が皇紀を輩出していることも関わってくると考えられます。

このようなワニ氏の成立基盤のなかでの帯解地域を評価するとすれば、5世紀には春日地域に次ぐ規模での古墳築造がみられ、6世紀にいたるまで安定的な勢力基盤を保持することでしょう。また、15世紀の『三箇院家抄』には大宅寺庄の四至について「東限故小野御郷 南限山 西限上隈 北限八嶋山陵」とあり、大宅寺庄が崇道天皇陵（八嶋山陵）の南方にあったことがわかります。この記述に合致する位置には、7世紀頃の寺院とみられる塔ノ宮廃寺があり、大宅寺に推定できます。前述の歌謡もふまえると、帯解地域が概ね大宅氏の勢力基盤に合致することもわかります。大宅氏は、春日氏について小野・栗田氏等とともに勢力のあったことが知られていますので、古墳の築造状況とも調和的であるといえます。



ワニ氏成立基盤と古墳編年

図版目録

図版番号	題姓名	資料名	所属機関・引用文献	図版番号	題姓名	資料名	所属機関・引用文献
1	ベシヨ姫古墳	空堀写真	奈良県教育委員会	49	ベシヨ姫古墳	柱玉	奈良県教育委員会
2	朝比奈遺跡	遺構・遺物写真	奈良県教育委員会	50	ベシヨ姫古墳	鉄剣・石札門跡	奈良県教育委員会
3	朝比奈遺跡	お餅石遺構	奈良県教育委員会	51	ベシヨ姫古墳	土器	奈良県教育委員会
4	朝比奈遺跡	瓦葺	奈良県教育委員会	52	ベシヨ姫古墳	銅輪	奈良県教育委員会
5	朝比奈遺跡	土器	奈良県教育委員会	53	朝野古墳山2号墳	銅輪出土状態	奈良県教育委員会
6	朝比奈遺跡	土器土葺	奈良県教育委員会	54	朝野古墳山2号墳	石敷敷葺の状況	奈良県教育委員会
7	美濃江遺跡	溝S301	大和国史学	55	朝野古墳山2号墳	埴甲片	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
8	美濃江遺跡	埴石品	大和国史学	56	朝野古墳山2号墳	鉄片	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
9	美濃江遺跡	埴石	大和国史学	57	朝野古墳山2号墳	鉄鏡	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
10	美濃江遺跡	土器	大和国史学	58	朝野古墳山2号墳	小札	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
11	美濃江遺跡・菅原東遺跡	平田図	大和国史学、奈良県教育委員会	59	朝野古墳山2号墳	鉄鏡	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
12	菅原東遺跡	方形石敷敷	奈良県教育委員会	60	朝野古墳山2号墳	骨	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
13	菅原東遺跡	石製土・土葺	奈良県教育委員会	61	朝野古墳山2号墳	埴具	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
14	古志方形墳	銅輪出土状態	奈良県教育委員会	62	朝野山古墳	平・銅山図	奈良県教育委員会 1959
15	古志方形墳	埴土敷敷出土状態	奈良県教育委員会	63	朝野山古墳	埴玉	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
16	古志方形墳	埴土・土葺	奈良県教育委員会	64	朝野山古墳	銅鏡	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
17	古志方形墳	鉄鏡出土状態	奈良県教育委員会	65	朝野山古墳	土銅鏡	奈良県教育委員会 1959
18	古志方形墳	土葺出土状態	奈良県教育委員会	66	中上庄ノ山古墳	出土品一式	奈良県教育委員会
19	古志方形墳	戸隠銅輪	奈良県教育大学	67	五ツ塚古墳群	五ツ塚墳跡全景	奈良県教育委員会
20	上殿古墳	古墳写真	奈良県立橿原考古学研究所	68	五ツ塚古墳群	五ツ塚1号墳	奈良県教育委員会
21	上殿古墳	方形石敷敷跡写真	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	69	五ツ塚古墳群	五ツ塚2号墳	奈良県教育委員会
22	上殿古墳	鉄鏡	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	70	五ツ塚古墳群	五ツ塚3号墳	奈良県教育委員会
23	上殿古墳	鉄鏡	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	71	五ツ塚古墳群	五ツ塚4号墳	奈良県教育委員会
24	上殿古墳	遺構跡石敷敷	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	72	五ツ塚古墳群	五ツ塚5号墳	奈良県教育委員会
25	上殿古墳	埴石写真	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	73	帯塚塚古墳	石葺土葺	奈良県教育委員会 1961
26	上殿古墳	車輪石	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	74	帯塚塚古墳	銅葺品土葺	奈良県教育委員会 1961
27	上殿古墳	石葺	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	75	帯塚塚古墳	銅葺品出土状態	奈良県教育委員会 1961
28	上殿古墳	管玉	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	76	帯塚塚古墳	土器	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
29	ベシヨ姫古墳	出土品一式	奈良県教育委員会	77	帯塚塚古墳	石葺	宮内庁書陵部 2008
30	ベシヨ姫古墳	平田図	奈良県教育委員会	78	帯塚塚古墳	石葺	宮内庁書陵部 2008
31	ベシヨ姫古墳	埴土・土葺新築施設出土状態	奈良県教育委員会	79	帯塚塚古墳	石葺土葺	宮内庁書陵部 2008
32	ベシヨ姫古墳	埴甲片出土状態	奈良県教育委員会	80	帯塚塚古墳	埴石	奈良県教育委員会
33	ベシヨ姫古墳	菅原出土状態	奈良県教育委員会	81	帯塚塚古墳	土器	奈良県教育委員会
34	ベシヨ姫古墳	埴土出土状態	奈良県教育委員会	82	帯塚塚古墳	埴鏡	奈良県教育委員会
35	ベシヨ姫古墳	埴土出土状態	奈良県教育委員会	83	上ノ口遺跡	全貌	奈良県教育委員会
36	ベシヨ姫古墳	埴具・埴土出土状態	奈良県教育委員会	84	上ノ口遺跡	埴片	奈良県教育委員会
37	ベシヨ姫古墳	葦1号車輪施設出土品	奈良県教育委員会	85	上ノ口遺跡	埴片	奈良県教育委員会
38	ベシヨ姫古墳	埴甲	奈良県教育委員会	86	上ノ口遺跡	埴鏡	奈良県教育委員会
39	ベシヨ姫古墳	骨	奈良県教育委員会	87	朝山古墳	埴甲片	奈良県立橿原考古学研究所
40	ベシヨ姫古墳	埴具	奈良県教育委員会	88	朝山古墳	埴鏡	奈良県教育委員会
41	ベシヨ姫古墳	埴具	奈良県教育委員会	89	朝山古墳	埴鏡	奈良県教育委員会
42	ベシヨ姫古墳	埴鏡	奈良県教育委員会	90	朝山古墳	埴鏡	奈良県教育委員会
43	ベシヨ姫古墳	埴土	奈良県教育委員会	91	吉備塚古墳	土葺	奈良県教育委員会
44	ベシヨ姫古墳	埴土	奈良県教育委員会	92	吉備塚古墳	土葺	奈良県教育委員会
45	ベシヨ姫古墳	埴土	奈良県教育委員会	93	吉備塚古墳	埴甲	奈良県教育委員会
46	ベシヨ姫古墳	埴土	奈良県教育委員会	94	吉備塚古墳	埴甲	奈良県教育委員会
47	ベシヨ姫古墳	埴土	奈良県教育委員会	95	吉備塚古墳	埴甲	奈良県教育委員会

ワニ氏に関する主な参考文献

- 岸 俊男 1960 『ワニ氏に関する基礎的考察』『律令国家の基礎構造』吉川弘文館（1966『日本古代政治史研究』に増補改訂版）
- 藤井 稔 2010 『東大寺山古墳とワニ坂』『東大寺山古墳の研究』東大寺山古墳研究会
- 和田 萃 2010 『ワニ坂とワニ氏』『東大寺山古墳の謎と鉄刀』雄山閣
- 加藤謙吉 2013 『ワニ氏の研究』雄山閣

令和3年度秋季特別展

帯解の古墳時代とワニ氏

展示パンフレット

発行日：令和3年9月6日

編集：奈良県教育委員会文化財課

埋蔵文化財調査センター

発行：奈良県教育委員会

印刷：大倭印刷株式会社

